

水痘（みずぼうそう）予防接種を受けるにあたっての説明

● 水痘（みずぼうそう）とワクチン

いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによっておこります。麻疹（はしか）と同様に空気感染もあり、どこで感染するかわかりません。潜伏期間は、2週間程度とされています。

発疹の発現する前から発熱が認められ、典型的な症例では、発疹は紅斑（皮膚の表面が赤くなる）から始まり、水泡、膿泡（粘度のある液体が含まれる水泡）を経て、かさぶたとなり治癒されます。

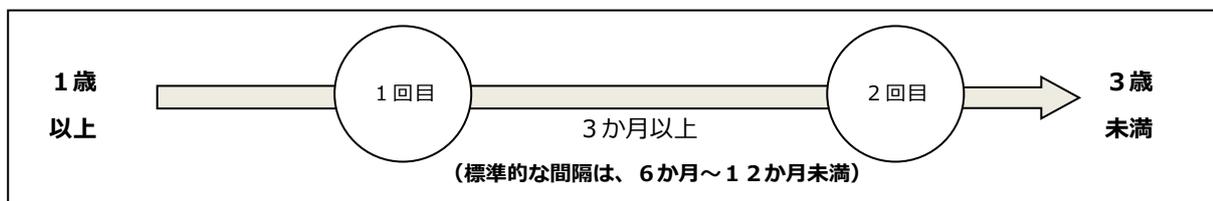
近年の統計からは年間100万人程度が発症し、4,000人程度が入院、20人程度が亡くなると推計されます。小児における重症化は、熱性けいれん、肺炎、気管支炎等の合併症によるものです。

乾燥弱毒性水痘ワクチンが用いられ、1回の接種により重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回目の接種により軽症の水痘も含めてその症状を予防できると考えられています。

● 接種年齢：1歳～3歳未満

（標準的な接種の開始は、1歳～1歳3か月未満）

● 接種スケジュール：計2回



● 主な副反応

まれにおこる重症な副反応としては、アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病等がみられます。

その他、一定の頻度で見られるとして報告されている副反応については下記のとおりです。

- ・過敏症：接種直後から翌日に発疹、蕁麻疹（じんましん）、紅斑、そう痒、発熱等があらわれることがあります。
- ・全身症状：発熱、発疹が見られることがあります。一過性で通常、数日中に消失されるとされています。
- ・局所症状：発赤、腫脹、硬結等があらわれることがあります。